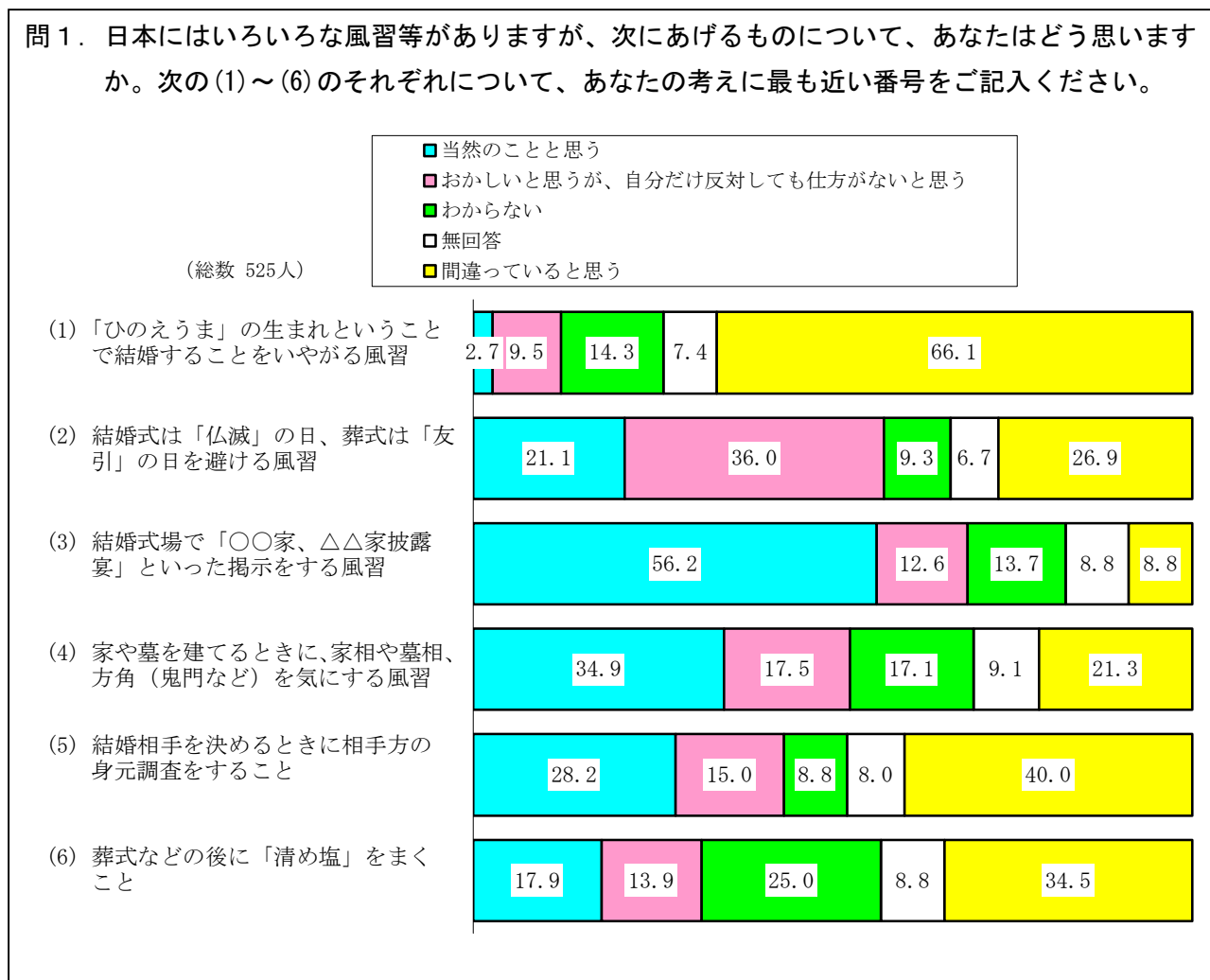


第1章 風習・慣習に対する意識

1. 風習・慣習に対する意識



■ 「ひのえうま」の風習は6割半が批判的、

「結婚式場の家名表示」には約7割が肯定的・容認的な態度

まず、「差別」に対する意識との関連という見地から、伝統的な風習・慣習について、6項目を取上げ、意見を聞いた。

- (1) 「ひのえうま」の生まれということで結婚することをいやがる風習については、「間違っていると思う」が66.1%（県74.4%）で、「おかしいと思うが、自分だけ反対しても仕方がないと思う」が9.5%（県15.3%）、「当然のことと思う」は2.7%（県1.9%）で「わからない」が14.3%であった。
- (2) 結婚式は「仏滅」の日、葬式は「友引」の日を避けるという風習については、「おかしいと思うが、自分だけ反対しても仕方がない」が36.0%（県39.0%）と最も多く、次いで「間違っていると思う」が26.9%（県42.4%）、「当然のことと思う」が21.1%（県10.7%）であった。
- (3) 結婚式場で「〇〇家、△△家披露宴」といった掲示をする風習については、「当然のことと思う」が56.2%（県46.3%）で5割半であった。

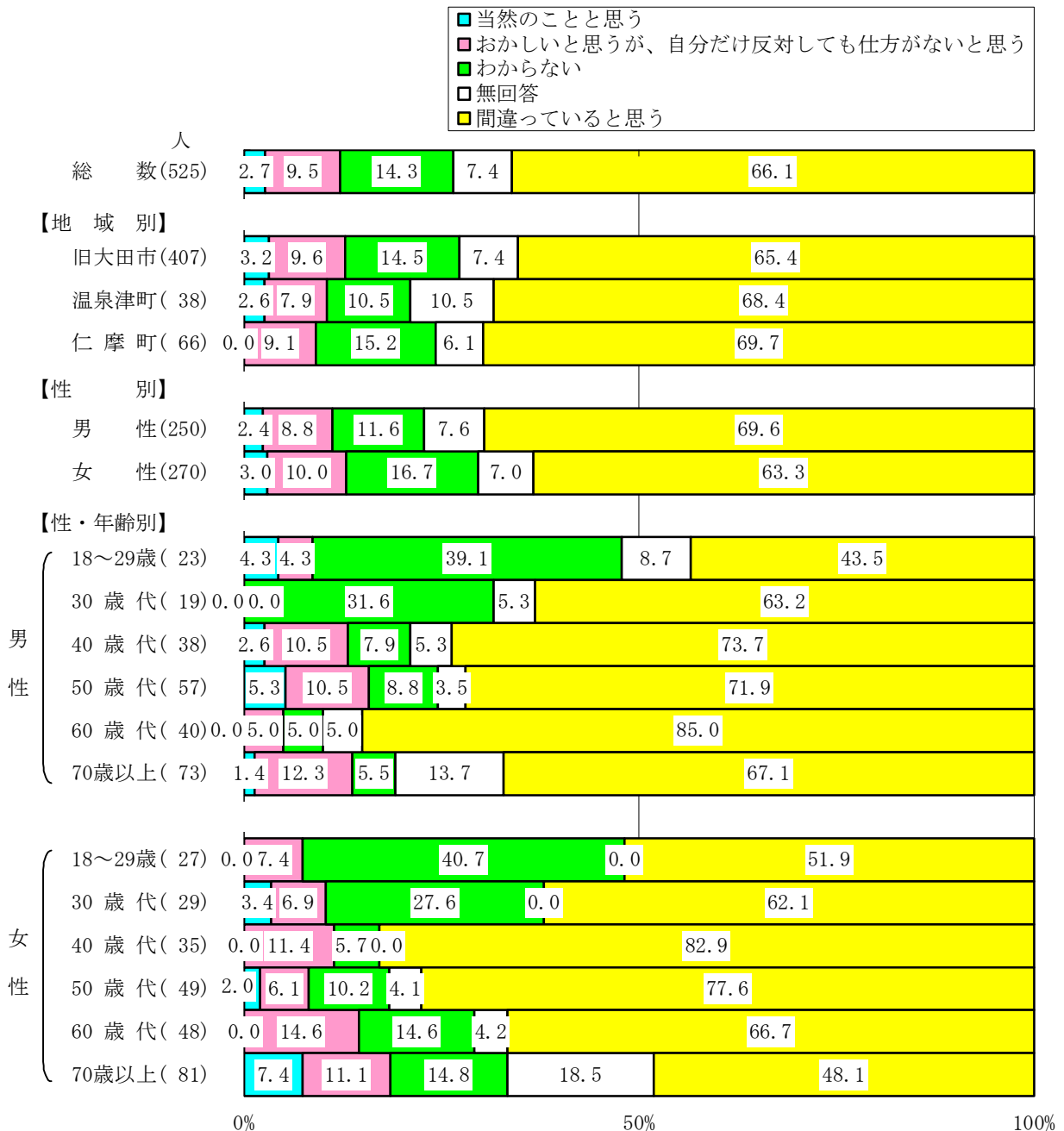
- (4) 家や墓を建てる時に、家相や墓相、方角（鬼門など）を気にする風習については、「当然のことと思う」が 34.9%（県 41.9%）で 3 割半であった。
- (5) 結婚相手を決めるときに相手方の身元調査をすることについては、「間違っていると思う」が 40.0%（県 40.2%）、「当然のことと思う」が 28.2%（県 25.1%）で、肯定的な意見が約 3 割であった。
- (6) 葬式などの後に「清め塩」をまくことについては、「間違っていると思う」が 34.5%であるが、一方で「わからない」が 25.0%と多くなっている。

(1) 「ひのえうま」と結婚

「ひのえうま」の生まれということで結婚することを嫌がる風習について、性別では、女性より男性に批判的な意見がやや多い。

性・年齢別では、男性 60 歳代（85.0%）、女性 40 歳代（82.9%）で批判的な意見が 8 割を超え多くなっているが、一方では若い世代で「わからない」との意見が多くなっている。

図 1-1 「ひのえうま」と結婚

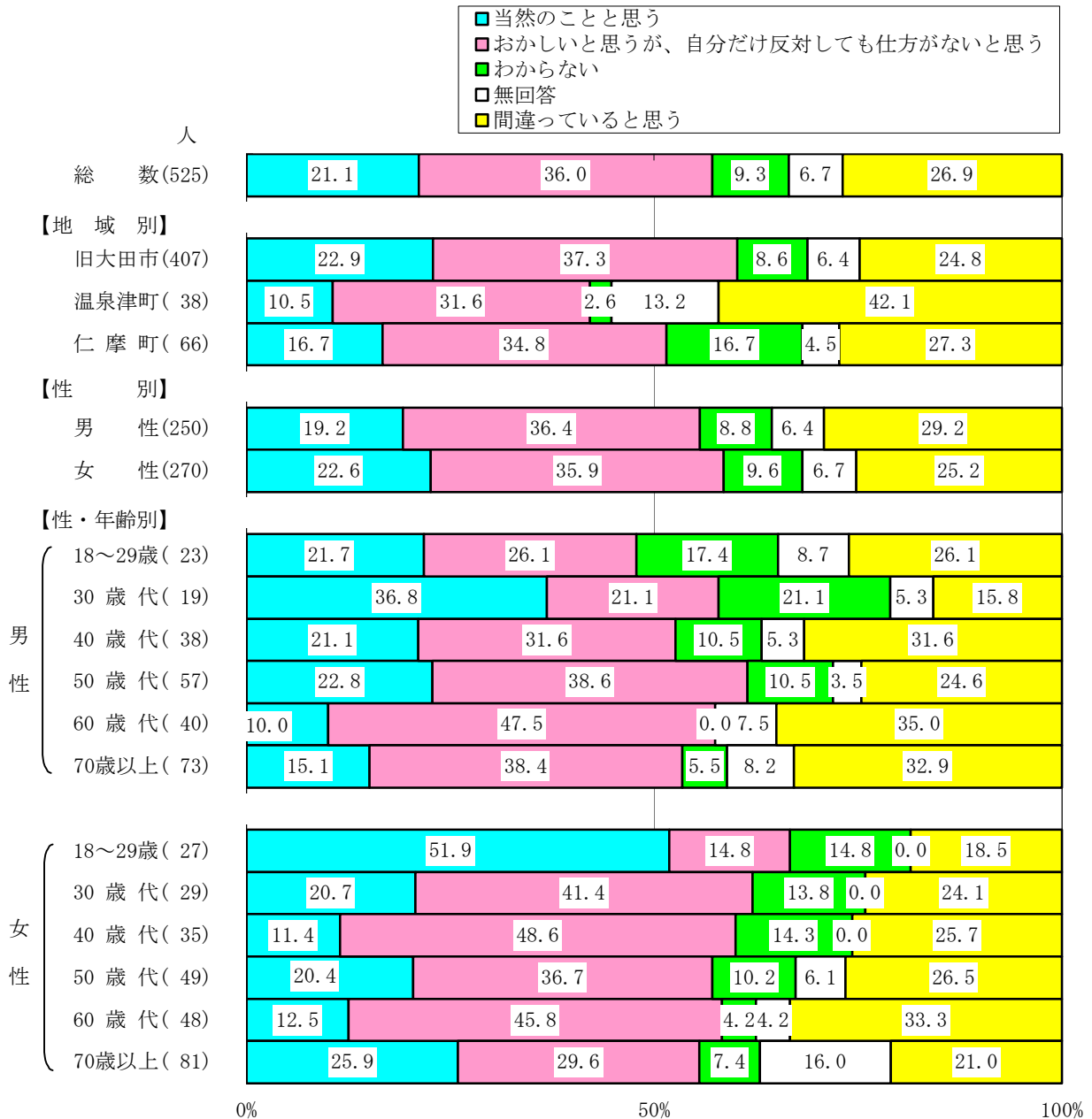


(2) 結婚式と仏滅、葬式と友引

地域別にみると、「間違っていると思う」という批判的な意見は温泉津町（42.1%）で多くなっている。

性別では、男性で批判的な意見がやや多い。性・年齢別でみると、「当然のことと思う」という肯定的な意見は、男性30歳代（36.8%）がやや多く、女性29歳代以下（51.9%）は5割を超えている。

図1-2 結婚式と仏滅、葬式と友引

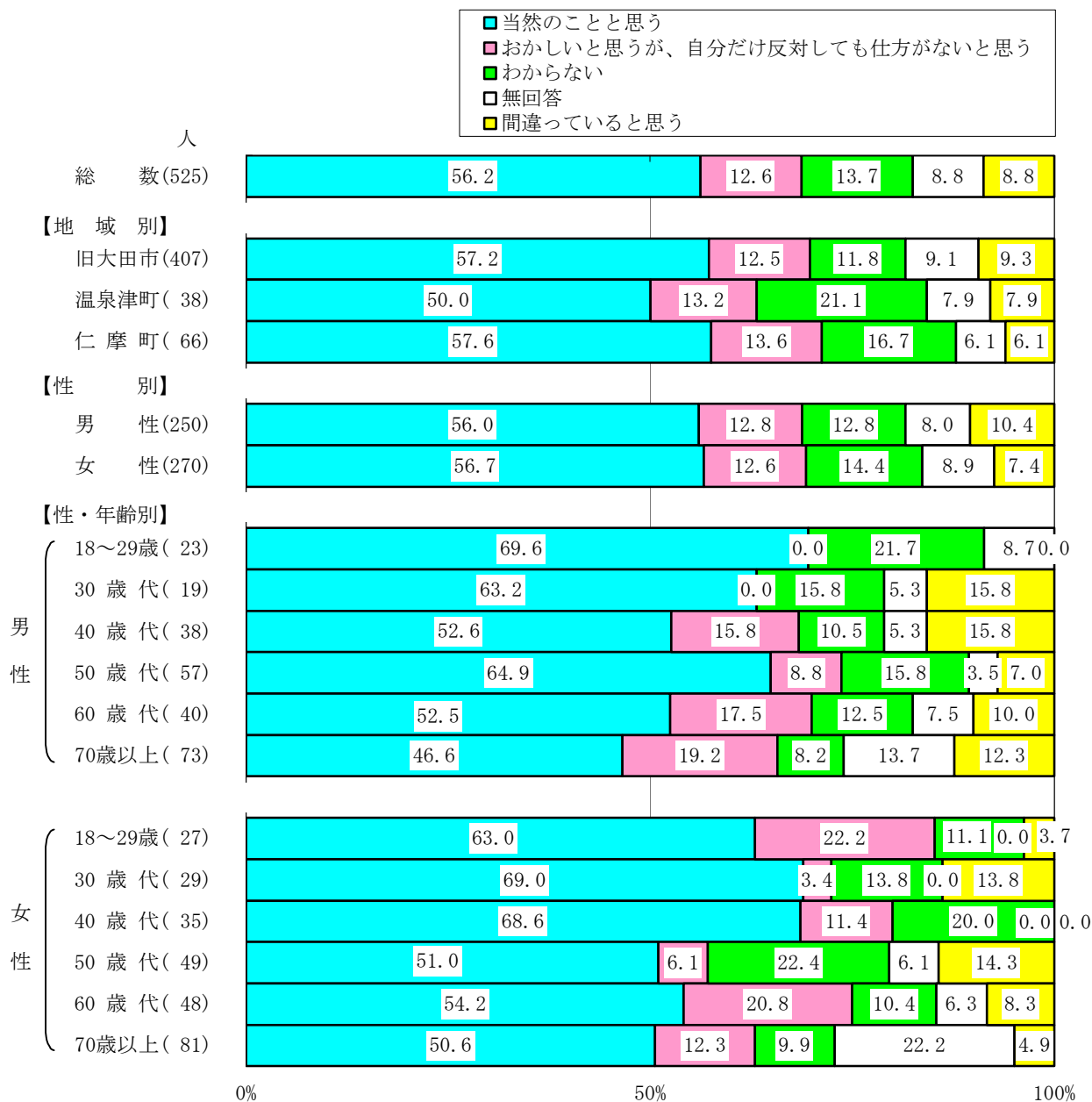


(3) 結婚式場での家名表示

結婚式場で「〇〇家、△△家披露宴」と掲示する風習について、「当然」という意見が 56.2%（県 46.3%）、「仕方がない」という意見が 12.6%（県 33.1%）で、肯定的・容認的立場の人が 68.8%と圧倒的に多い。

性別では、男女でありあまり差異はみられないが、性・年齢別でみると、肯定的・容認的意見は男性では 50 歳代、女性では 40 歳代以下と 60 歳代で 7 割を超え多くなっている。

図 1-3 結婚式場の家名表示

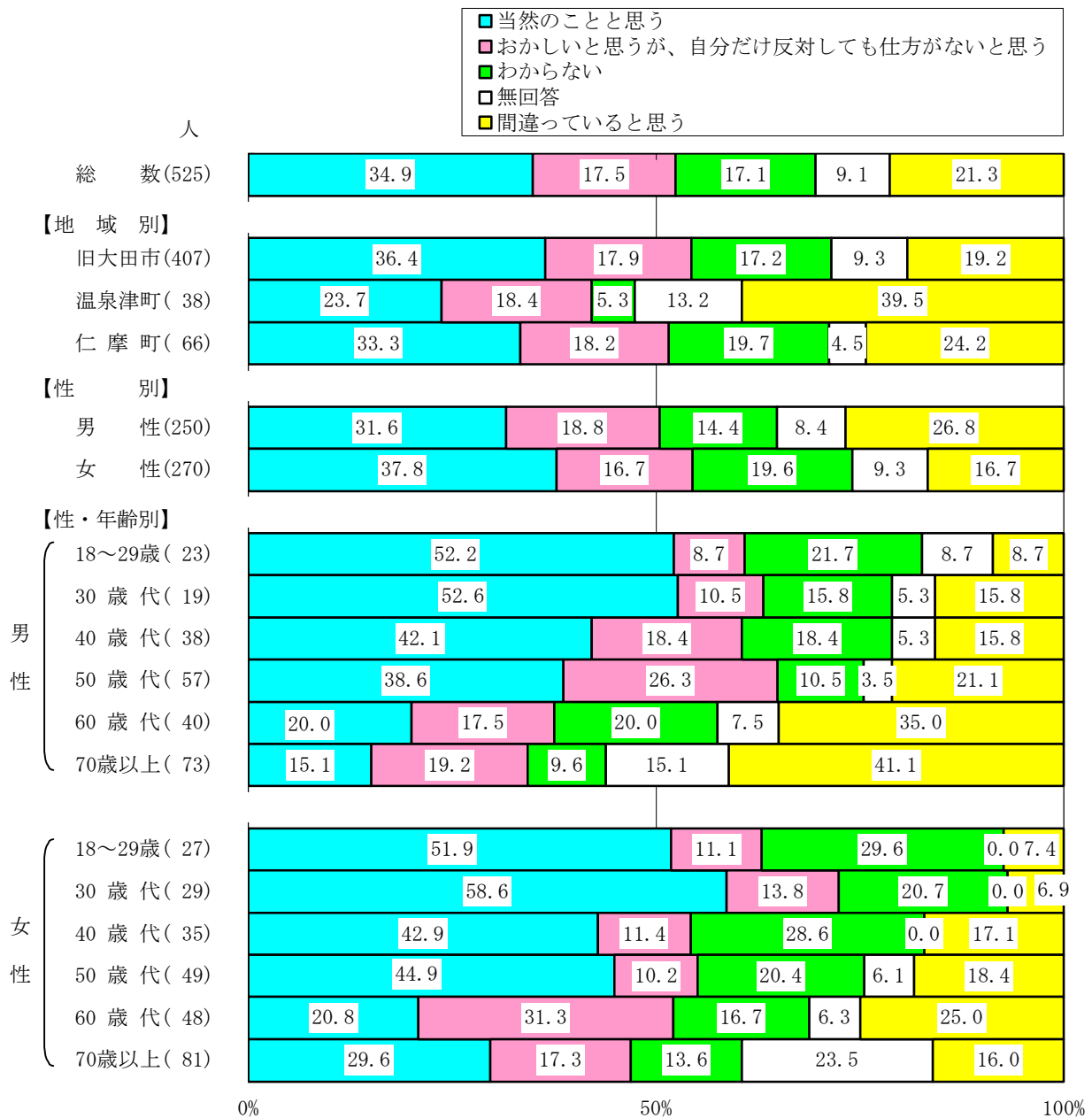


(4) 家・墓の建築と方角

地域別にみると、批判的な意見は温泉津町（39.5%）で最も多く、最も少ない旧大田市（19.2%）との差が大きくなっている。

性別では、男性より女性に肯定的な意見が多い。性・年齢別でみると、肯定的・容認的意見は、女性の30歳代が多くなっており、批判的な意見は、60歳代以上の男性で多くなっている。

図1-4 家・墓の建築と方角

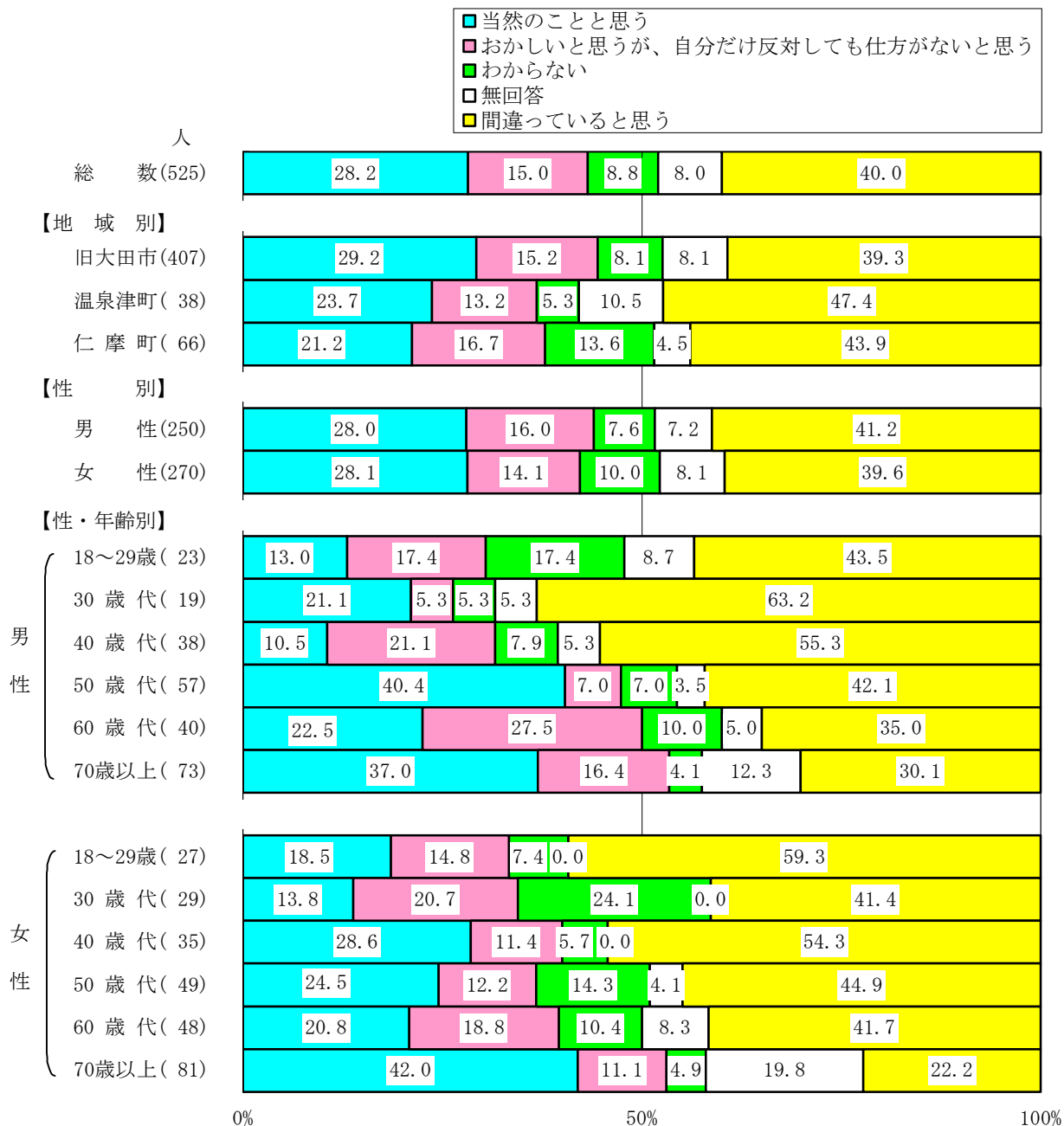


(5) 結婚相手の身元調査

地域別にみると、「間違っている」とする批判的な意見は温泉津町（47.4%）で多くなっている。

性別では、男女で差異はあまりみられないが、性・年齢別でみると、批判的な意見は男性では30歳代、女性では29歳以下で約6割となっている。

図1-5 結婚相手の身元調査



(6) 葬式などの後にまく「清め塩」

地域別にみると、批判的な意見は温泉津町（47.4%）で最も多く、最も少ない仁摩町（21.2%）との差が大きくなっている。

性別では、女性より男性のほうがやや批判的な意見が多く、性・年齢別では、女性の30歳以下で肯定的・容認的意見が約5割と多くなっている。

図1-6 葬式などの後の清め塩

